

クロサワヒメコバネ大珍品の名を返上する

花岡 正

クロサワヒメコバネは全国的に大変採集記録が少なく、確実な採集地、採集方法がまだ無い。いままで年に1～2頭採集記録が報告される位だったが、1993年6月末から7月18日位にかけ400頭余りが採集され、生態もかなり知られてきたので報告する。

場所は兵庫県ではなく京都府舞鶴市与保呂だが、環境は兵庫県宍粟郡波賀町の赤西、音水溪谷によく似ているので今後同地でも大量に採集される可能性があるため詳しく記しておく。

この地では、ミズキ、クマノミズキ、トチ、エノキなどの落葉広葉樹林で、伐採後2～3年位の所に植樹の為に生木が少し残り、地面に土止め用に所どころミズキやクマノミズキ、コナラ、エノキなどの伐採木を山にして横積されている所がポイントになった。本年6月27日に50頭余りが採集され（この日は♂が9割位）7月7日に44♂45♀を採集。この後は♀が多くなっていき7月18日までに上記の頭数に上り、大珍品の座を滑り落ちてしまった。また大阪の斎藤氏が持ち帰ったクマノミズキより2頭を羽脱させてもいる。

活動行動は雨天では1日中、晴天は気温の低い午前中、昼近くまでは、ほとんど動かず、横積にされている材から上向きに伸びているミズキ、クマノミズキ、サルナシ、クリ、コナラなどの枝先にしっかりとつかまっていた。相当強く揺さぶっても枝を離さなく驚く位だ。気温が上昇すると枝先を少し動いたり、飛び廻る個体が出てくるが、サルナシのツルに止まる個体が多く（枝からぶら下がっている根のついていないツルが一番良い）止まると、又ほとんど動かない。1頭が止まっていると2～3秒の間隔を置いて次々に並んで4～5頭上向きに止まる群れも多く見られた。活動は夕方4～5時位まで見られる。花は、ここはクマノミズキしか無く、ほとんど花上での採集はなかった。採集した全員が大声を出し、震える手で採集したエバニアは想像していたよりかなり大きかった。他の種類と採集方法が大きく違ったのは9割以上が、成虫を目で見つけて、手づかみしたり、ネットインしたことである。

カンボウトラカミキリ ケヤキより羽脱

花岡 正

岡山県在住の和田洋介氏は、1992年秋に兵庫県宍粟郡波賀町の音水溪谷にて直径5センチ位のカミキリムシの入っているようなケヤキの枝を持ち帰ったところ、1993年2月になって成虫が羽脱したとのことである。